

集

歌

魚を

氷ひ



島 木 赤 彦 著

アララギ叢書第八篇

氷 魚

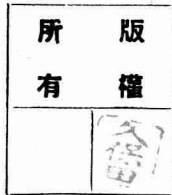
東京 岩波書店發行

大正九年六月十日印

水龍齋付

大正九年六月十五日發行

定價貳圓五拾錢



著者 久保田俊彦
東京市神田區下六番町二十七番地

發行著者 岩波茂雄
東京市神田區南神保町十六番地

印刷者 中田福三郎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十三番地

發行所

東京市神田區
南神保町十六番地

岩波書店

電話九段 一一八〇番
振替東京 二六二四〇番

絲書社會英舍第一工場印刷

氷魚目次

大正四年

山國の春.....	一
貰はるる仔犬.....	四
小石川植物園.....	七
妻と子 一二三四.....	一〇
左千夫先生三週忌.....	一九
妻と子 五.....	二〇

御即位式奉祝歌	三
朝顔の花	二五
蓮の花	二六
縁日	三三
渡鳥	三三
栗	四〇
露佛	四三
子ども	四七
吹雪	四九
獨座	五三

大正五年

あなぐら	五五
新年	六一
校正のかへり	六三
長塚節一週忌	六四
窓外春雪	六五
親雀	六七
あかつき	六八
はふ葛	七一
毛野の山	七三

春の山	七五
山路	七四
御嶽講社	七六
早稻田田圃	八〇
雛燕	八二
あらし	八五
お舟祭	八七
歸國	八九
山の原	九二
星の上	九五

大正六年

百日紅		六
柚子		一〇一
上野山		一〇一
野分		一〇三
子規忌		一〇九
病牀 一二三		一〇九
茂吉に與ふ		一一六
庭土		一二一
憲吉に與ふ		一二三
わかれ		一二四

嵐の空	一二七
龜原の家 一二三四五	一二九
善光寺	一四二
榊と松	一四五
木曾	一五一
岩手以北	一五四
北海道 一二三	一五七
福島	一六八
家に歸りて	一六九
富士見原 一二	一七三
暴風雨の後	一七七

大正七年

百日紅一二	一七九
海嘯のあと	一八三
霧雨	一八
牟禮驛	一八八
落葉松	一九九
霜月	一九三
佐久の原	一九六
わが子	一九八
龜原	二〇一
逝く子	二〇四

正月	二五
善光寺 一二	二八
校正室	三三
紅梅	三四
千桎に與ふ	三七
淺間山	三三
わが父	三五
高木の家	四二
轉居前	四五
土湯	四九
岩山	五一

大正八年

飯山町一二	二五四
番町の家一二三	二六三
冬の雨	二七五
池田町	二七九
追分原	二八二
ウキルソン氏に寄す	二八五
講和大使	二八七
三月	二九〇
睡蓮	二九二
番町	二九三

本所の道	二九四
龜戸	二九七
先生を思ふ	二九八
紫雲英	三〇一
瀧温泉	三〇四
郭公鳥	三〇九
大町	三一〇
山居	三二五
常磐村	三二八
歸國一二	三三〇
二階	三三六

大正九年

冬の日.....三二

氷湖一二.....三三

春雨.....三三

氷魚目次終

裝
幀
口
畫
.....
平
福
百
穂

挿
畫
.....
森
田
恒
友

山國の春

春雨のなかより見れば葦原の奥^{おく}つ山にはみ雪
降りたり

山なかに下駄はきかへぬ萱草^{くわんさう}のここだ芽をふ
く日^ひ向^{むか}に疲れて

枯芝原よべ降りし雪のとけしかば辛夷こぶしの花は
雫してあり

道の手には村は見ゆれど家の子は春山樵きりに行
きにつらむか

舊道きうだうののぼりくだりを行きしかば雉子きぎす鳴くも
よ草山くささんの上うへに